七時雨山（山スキー）

2011 年 2 月 20 日
松田

２月２０日（曇り後晴れ）

安比の近くに、「ななしぐれ」という、しっとりした雰囲気のいい名前の山があることを知り、前から行ってみたいと思っていた。　多分新緑の頃がベストシーズンなのであろうが、人のいないこの時期もなかなかいいだろうと、早起きして高速に乗り、西根インターを目指す。昨夜の雪が残り、白くなった高速道路を慎重に走って、西根インターで降り、地図を睨みながら、入山口の寺田を目指す。田代平に向かう道路はゲートで通行止めになっており、その前に車を止めて支度をしていると、スノーモービルを牽引した４駆がやってきた。話を聞くと、今日は１０台以上お仲間が来るという。以前、野沢に抜けるツァーコースで、同じようにたくさんのスノーモービルに遭遇し、あまりの騒音に閉口させられたことがあった。

ここはそういう人達が来る場所であることを知り、少しがっかりしたが、来る前に登ればいいということで、急いで出発。しばらく車道を辿り、沢を渡り登山口に行く林道に入るが、林道はスノーモービルのトレースがばっちりで、全くラッセルはない。広々した放牧地からはすっきりした七時雨山がよく見え、左のスカイラインはスキー向きの傾斜だ。１時間ほどで登山口に着き、登山道らしき所を辿るが、まったくといっていいほど標識布はない。好きな所をどんどん登っていくと、時々下の方から爆音が聞こえる。

ここの森は夏油の方と異なり、ブナがあまりなく、みずなら、岳樺が多い。とりわけ、岳樺は立派なものが多く、北上とかなり樹相が違うのは、緯度が北に寄ったせいか？　ここからだと青森は指呼の間にある。山頂直下は白く、少しクラストしているが、そのまま山頂までスキーで上がり、南峰と書かれた七時雨山の頂上からは、安比スキー場が真向かいに見える。反対側には少し低いが三角点のある北峰が見える。

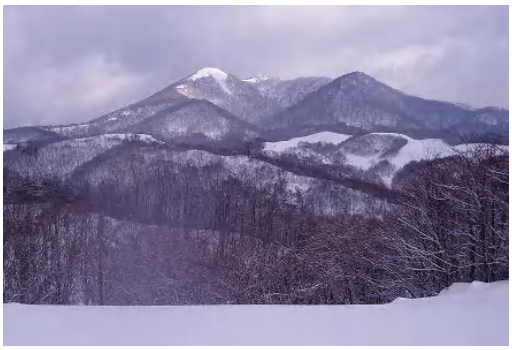
行こうかなと思ったが、風邪の名残りか少し頭痛を感じ、北峰は諦める。シールを外して山頂より滑り始めると、最初はガリガリで滑りにくかったが、すぐに粉雪の斜面となり、少し重いがフリートレックでは全く苦にならない。

るんるんの林間滑降で、登りに目をつけておいた立派な岳樺の下で一休み。りんごをかじってまた滑り、じきに登山口に戻ると、真新しいスノーモービルのトレースがあったが姿はない。トレースを使って、長い林道をあっという間に車道に戻り、少し歩くと車に着いた。結局、スノーモービルと遭遇することはなかったが、ゲート付近には１０台以上の牽引車両が停まっており、彼らに会わなかったのは運が良かったなと思った。帰路、西根の町から背後にすっきりした七時雨山が良く見えた。

コースタイム

ゲート（８：３０）－　登山口（９：４０）－山頂（１１：１０）－ゲート（１２：２０）

地形図　　荒屋（五万分の一）



上　放牧地より七時雨山：下　山頂